

# 島根県空手道連盟

## これまでのあゆみ

空手道は、手足を使って攻撃する武道で、競技としては、組手と形の2つの種目がある。組手競技は1対1で行われ、攻撃は相手の体の寸前で止めること（寸止め）が基本となる。蹴り、突き、打ちなどの技を駆使し、ポイントで勝敗を競う。

形競技は、たくさんの敵に囲まれている場面を想定して、攻撃と守りを一つの流れに組み込んだ形（カタ）を演じる。正確さ、力強さ、緩急、表現力などを得点で競う。小さな子どもから熟年世代まで、体力に合わせて、幅広い年代で実施できるスポーツとなっている。



令和5年12月10日 全日本空手道選手権大会 女子形 三島きり選手



組手

島根県空手道連盟は、国体で正式種目に採用が決まったのを契機に、昭和52年に島根大学空手道部内に設立準備室が発足したのが始まりである。当時県内で活動していた4団体で立ち上げ、以後、加盟団体は社会情勢の変化とともに増減を繰り返しながら、現在4会派団体と高体連空手道専門部で構成し活動している。

競技人口は県東部の市部に多い傾向にあるが、東部から西部まで幅広い地域で活動してきた。また、全国大会では小学生は優勝、中学・高校は全国大会ベスト8・ベスト4の入賞、国体においても成年男女が同様の入賞を果たすなどしている。

## 現在の状況

近年、ジュニアの会員数は減少しており、少年や成年の競技人口の減少にも影響を及ぼしている。そういった状況の中でも、各種の大会を実施している。秋～冬にかけては松江市、出雲市、安来市、浜田市の市連大会、また春には小学生、中学生、高校生、一般までの各年代の選手が一堂に会する、年間で最大の大会となる島根県空手道選手権大会を実施している。この大会は、中国大会、国スポ、及び全日本少年少女空手道選手権大会、全国中学生空手道選手権大会の県予選も兼ねている。

また、空手道は日本スポーツマスターズの種目となっており、その予選も兼ねた、島根県シニア空手道選手権大会も実施している。40歳代～70歳代の選手も全国大会を目指して稽古に励んでいる。

現在、2030年に開催される島根かみあり国スポに向け、選手強化、指導者や審判員の育成に取り組んでいる。選手は県内外での強化練習や、県外指導者を招請して指導を受けるなど、レベルアップを図っている。

指導者においては、指導力や審判技術の向上のため、県内外での研修会参加や選手の強化練習と併せた実技練習などを実施し、各種資格の取得も目指している。

## これから

少子化による会員数の減少を克服して、空手道のさらなる普及を図っていかねばならないが、まずは島根かみあり国スポに向けターゲットエイジの選手のレベルアップを図っていくことが喫緊の最大の課題である。

そのためにも島根かみあり国スポへのロードマップに従って事業遂行を図るのは勿論、連盟各委員会の活動を更に活性化させ、更に各委員会より選出された常任の委員会により、それぞれの英知を結集して、より機能的・民主的な連盟の運営を図り、来る島根かみあり国スポでは全種目入賞を目標としている。更に開催地の大田市と連携して競技運営を企画し、島根かみあり国スポの成功を目指す。



中国地区空手道選手権大会